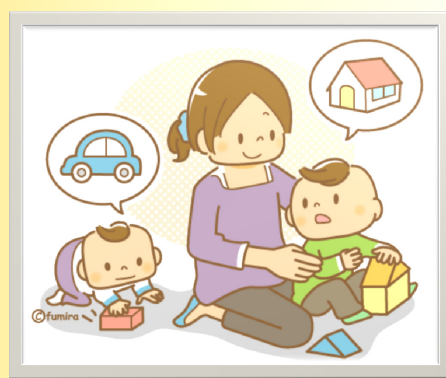
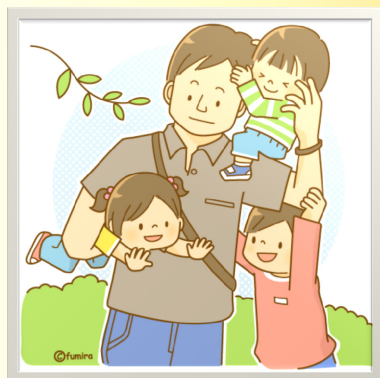


人をつなぐ 未来へつながる 柏市で活動している団体を 紹介する本

～柏市の地域・市民活動団体の紹介～

《第3次柏市生涯学習推進計画別冊》



平成 28 年 4 月
柏 市

はじめに

この本は、これから柏市で「地域活動をはじめたい」、「活動団体を設立したい」、「他の団体と連携したい」、など今後、「地域社会へ貢献したい」と考えている皆さまのご参考にしていただき、住みやすく、よりよい地域になるための一助になればとの願いから、作成いたしました。

そのため、リアルな情報をお届けしたく、市内で実際に活発な地域活動をされている団体からご協力をいただき、アンケート及びヒアリング調査による団体の主な概要や活動をご紹介します。

ぜひ、それぞれの団体をご覧いただき、少しでも柏市で活動されている団体の皆様と市民の方々を「つなぐ」きっかけとして、この本が活用されれば幸いです。

本書の作成にあたり、ご協力をいただきました活動団体の皆様には、心より感謝申し上げます。



柏市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

<< 団体一覧 >>

No.	頁	活動分類	団体名	拠点地区	団体の主な運営 (自己負担以外)	設立形態
①	2	地域づくり 屋内	NPO法人 チームまつば	松葉	・カフェ事業の収益 ・イベント開催の収益	地域組織として設立
②	4	地域づくり 屋内外	高田地区福祉教育推進連絡会議	高田	・公的事業	地域組織として設立
③	6	地域づくり 屋内	柏子どもの文化連絡会	富里・永楽台・増尾	・会費 ・賛助金・協賛金 ・事業収益・寄付	任意の設立
④	8	地域づくり 屋内外	多世代コミュニティ サロンつちのこ	土	・公的補助 ・イベント出店 ・企業の支援・寄付	地域組織として設立
⑤	10	地域づくり 屋内外	多世代交流型コミュニティ実行委員会	高柳	・公的資金(初期) ・事業収益・イベント出店 ・会員寄付	行政主導
⑥	12	地域づくり 屋外	大津川をきれいにする会	風早北部・大津ヶ丘・ 塚崎・風早南部	・会費 ・寄付・イベント出店 ・地域支援・企業の支援	任意の設立
⑦	14	子育て 屋内	赤ちゃんのほっぺ／チルドリンちば	田中	・カフェ事業収益 ・イベント収益	任意の設立
⑧	16	子育て 屋内外	柏市青少年相談員連絡協議会	田中	・公的補助	行政主導
⑨	18	子育て 屋内	柏市子ども会育成連絡協議会	田中	・会費 ・活動参加費 ・公的補助	行政主導
⑩	20	子育て 屋外	青空共同保育 どんぐり	富勢	・会費 ・イベント出店	任意の設立
⑪	22	子育て 屋外	柏プレーパークの会 あそぼうよ	松葉	・会費 ・事業収益 ・企業の支援	任意の設立
⑫	24	子育て 屋内	ミニシアターはらべこくん	松葉・高田・柏中央	・会費 ・事業収益 ・公的補助	任意の設立
⑬	26	子育て 屋内	柏おもちゃ図書館 かたつむり	柏中央・豊四季台西・ 風早北部	・公的補助 ・企業の支援 ・イベント出店	任意の設立
⑭	28	子育て 屋内	NPO法人 教育支援三アイの会	柏中央	・公的事業 ・企業の支援	地域組織として設立
⑮	30	子育て 屋内	地域組織活動 ほほえみ会	永楽台	・公的補助 ・会費 ・事業収益	講座受講から設立
⑯	32	子育て 屋内	NPOこどもすぱーす柏	富里	・会費・イベント出店 ・事業収益 ・公的補助	任意の設立
⑰	34	子育て 屋内外	柏Papa Shake Hands	永楽台	・公的補助	任意の設立
⑱	36	子育て 屋内外	子ども・学校支援がらフィア “十色” 咲かそう会	藤心	・会費 ・事業収益 ・地域支援	地域組織として設立
⑲	38	子育て 屋内	ひろば・色えんぴつ	南部	・公的事業 ・イベント収益	行政主導
⑳	40	子育て 屋外	みんな集まれ柳の木	高柳	・事業収益 ・イベント出店	行政主導

【団体特性の凡例】

主な対象	活動場所
地域づくり 地域づくりを目的とした活動をしています。	屋内 屋内での活動を中心としています。
子育て 子育て支援を目的とした活動をしています。	屋外 屋外での活動を中心としています。
	屋内外 屋内外問わず活動しています。



NPO 法人

チームまつば

たくさんの人と知り合いになれる。それは一つの財産。
地域の声に耳を傾け、人々が気軽に憩える場を提供し続けたい。

団体の概要

発足時期 2012年（平成24年）6月

**構成員
（会員）数** 16名
（男性6名、女性10名）

主な活動場所 ご縁カフェ「まつばR」

活動頻度 営業時間：火水木 11:00～18:00、
金土日 11:00～20:00
月曜定休

**活動目的
（団体の理念）**

松葉町及び周辺地域住民に対して、地域活動の拠点となる場を提供し、多世代住民の交流と資質向上・活動支援・社会参加促進に関する事業を行い、地域活動活性化を通じ、より良いコミュニティ作りに寄与することを目的としています。

**主な活動
内容**

- ・ コミュニティカフェである「ご縁カフェ まつばR」の運営
- ・ 各種イベントの運営
- ・ 展示

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・ 松葉町で座談会を実施した際に、地域住民から地域で気軽に触れ合える場が欲しいとの要望があり、スタートしました。

団体の特徴（強み）

- ・ 座談会に端を発した活動であったので、ニーズや意識が共有されていてメンバー同士で良好な関係を築けています。
- ・ その高い意識はカフェ設立時の素晴らしい連携へと結びつき、メンバーによるDIYでつくられたカフェは、木の温かなぬくもりが優しい印象を与え、誰もがくつろげるカフェとなっております。

絆はこうして強まった

週1回の定例会議や年2回のサポーターとの懇談会を通じてコミュニケーションを図り、活動状況や目的、意識の共有を図っています。

また、活動の状況をFacebookで随時発信しており、スタッフ、サポーター、お客さんとの交流がより一層深まっています。

今後力を入れていこうとしていること

いろいろな人に、いろいろな用途でこの場所を活用してほしいと思っています。そのためには様々な団体と連携することが必要だと考えています。

また、それとともに、NPO法人としての組織体制を整えていくことにも力を入れていきたいと思っています。

私たちはこんなことをしています



「イベント時風景①
オープンマイク」
於：ご縁カフェ まつばR



「X'masパーティー」
於：同左



「幼稚園のお母さん
たちの昼食会」
於：同上



「イベント時風景②」
於：同左

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・まず地域のニーズを探るところから始めることが大切。ふるさと協議会の活用が一番です。
- ・立ち上げにはいろいろな人材が必要です。特に活動の中心となる人の確保は重要です。
- ・新メンバーの募集については、知人、友人を通じて、あるいはイベントを通じて自然とできるとおもいます。
- ・活動の周知の方法は、地域に浸透するまではメンバーが自発的に動き、口コミで知り合いを呼んだりして身内から輪を広げていきました。効果的だったのはFacebookでの発信や手作りの掲示板での告知、新聞（まつばRニュース）、ふるさと協議会からの情報発信でした。
- ・活動を長続きさせるには、組織として人間関係を築きそれを良好に保つことと、話し合う場を多く設けることが大切です。

連絡先

代表者 藤田 武志（理事長）

活動
拠点

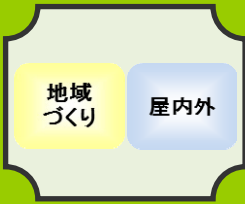
ご縁カフェ「まつばR」

Tel 04-7197-4521

e-mail team-matsuba@yahoo.co.jp

http:// matsuba-r.jp

HP https://ja-jp.facebook.com/goencafe.matsuba.r



高田地区福祉教育推進連絡会議

助け合いと連携で世代をこえ、

安心して楽しく生活できる地域づくり！

団体の概要

発足時期

2013年（平成25年）4月

構成員 （会員）数

高田地区社会福祉協議会
（高田ふるさと協議会保健福祉部）
会議メンバー17名程
（男性13名・女性4名）

主な活動場所

高田近隣センター内（事務局）
指定学校：柏第四小学校・柏第五中学校
・県立柏中央高等学校

活動頻度

事業期間中は随時、集合・活動。
【事業指定期間：平成25年4月～
平成27年3月】

活動目的 （団体の理念）

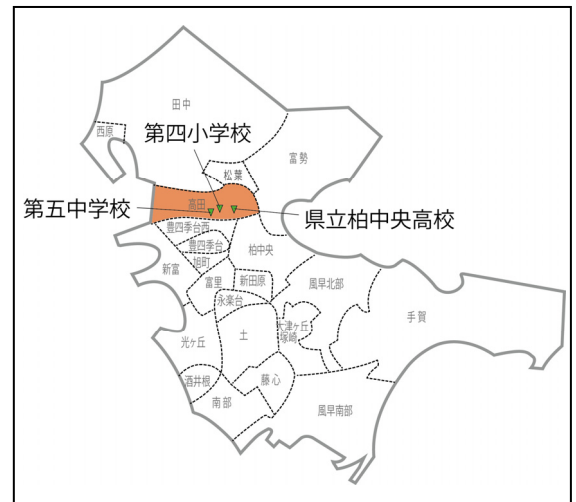
地区全体の共通テーマ「助け合いと連携」を基本に活動し、新規事業を立ち上げせず、これまでの地域の取組を大切に、福祉教育の要素を入れる方法で取組を進めた。

活動の5つの柱：高田地区文化祭・青色パトロール・施設行事への参加・柏市ゴミゼロ運動・ふれあいスポーツの集い

主な活動 内容

・ふれあいサロン活動、サロン活動支援、地区懇談会、文化祭、グランドゴルフ大会、高齢者と小学生のランチ交流、防災訓練、定例役員会、広報誌発行 等

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・これまでの地域活動を通じたつながりから、社会福祉協議会の推薦を受け、所属団体（高田ふるさと協議会）を母体として事業を受託しました。

団体の特徴（強み）

- ・既存の団体（高田ふるさと協議会）から、連携支援されています。
- ・学校との関係が密になり、活動の情報や口コミが学校から発信されました。また、地域と学校との距離が近くなったことで、あらゆる活動への参加・助け合いが出来ました。
- ・生徒への影響としては、ごみ収集活動、防犯活動など一緒に参加するようになりました。

絆はこうして強まった

既存団体の構成員であるため、これまでの活動において調整が取りやすく、情報及び意識の共有ができたことで、信頼関係のもと協力連携の体制が構築できました。

今後力を入れていこうとしていること

指定事業の終了後も、これまでの関係性をより発展させ、息の長い持続可能な福祉教育の取組を可能にし、子どもから高齢者まで安心して楽しく生活できる地域づくりを目指していきたい。

また、子どもたちが、地域とのつながりを感じることができるようしていきたい。

団体組織としては、人がいなければ活動維持も出来ないため、引継ぎの人材等が必要であり、活動の継続により地域力と活性化につなげていきたい。

私たちはこんなことをしています



柏社協及び県教育委員会の福祉教育パッケージ指定を受け、地域と学校の連携による福祉教育を推進しました。

「高田地区福祉教育推進連絡会」

於：高田近隣センター



これまで実施してきた文化祭に、児童・生徒が多く参加したことで、若さと活気が加わり、これまでにない盛り上がりを見せました。

「文化祭」

於：高田近隣センター



文化祭のステージ発表で、柏中央高校書道部のパフォーマンス

「文化祭」

於：高田近隣センター



町会メンバーだけの活動だったが、学校職員やPTAの参加により、広く地域活動を知って頂く良い機会となりました。

「青色合同パトロール」

於：指定学校



高校生が子育てサロンに参加して体験学習。

「子育てサロン ｽﾀｰ ﾏﾘﾝｸﾞ」

於：高田近隣センター



柏第五中学の野球部生徒や多くの人が参加したゴミゼロ運動。

「ゴミゼロ運動」

於：高田近隣センター



小学生と高齢者がランチ交流。

「小学校で地域の高齢者とランチ交流」

於：柏第四小学校

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・いっしょに活動する人づくりが重要です。(チーム体制の肝)
- ・既存の地域事業を生かし、活動を充実させることを提案します。(活性化と発展、リスク回避 等)

連絡先

代表者 根本 利治 (会長)

Tel 04-7163-9000

活動拠点 高田近隣センター内 (事務局)

e-mail -

HP <https://sites.google.com/site/takatafk/>



柏子どもの文化連絡会

この活動を次の世代に手渡していきたい。

そして、手渡す価値のある団体でありたい！

団体の概要

発足時期 1994年（平成6年）10月

**構成員
（会員）数** 72名
（団体15・個人57）
（男性11名・女性61名）

主な活動場所 市内各所、柏市中央公民館、市内各近隣センター（主に富里・永楽台・増尾など）

活動頻度 各委員会活動…月1回程度
その他事業によって随時

**活動目的
（団体の理念）**

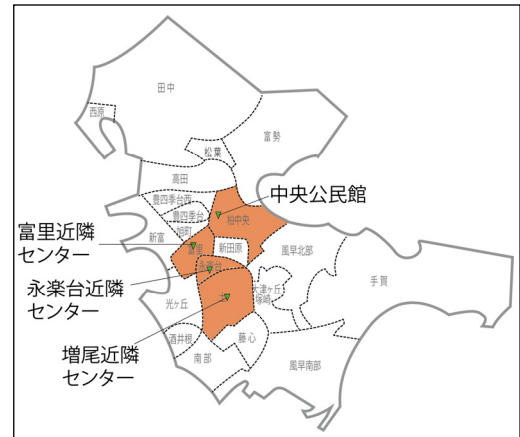
柏市で子どもに関する活動を行っている団体や個人が、横のつながりを持つことを目的として発足したネットワーク活動です。

人と人とのつながりの中で、子どもたちの心が豊かに育ってほしいと願って活動しています。

**主な活動
内容**

「柏市おはなし会S' わくわく人形劇まつり」、「増尾のもりでいっしょにあそぼう！」開催、中央公民館連携事業「親子ふれあい広場」の企画運営、小学生以上の子どもの居場所「The みんなのひろば(みんなひろ)」、会報『はっとハッと通信』・障がいのある子どもたちへの情報紙『るって！』発行、子育て支援の講演会、意見交換のための「atta(あった)会議」など

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

柏市内で個々に活動していた団体や個人が、情報交換をしたり、ともに活動したりすることで、つながりが生まれ、1人や1つの団体ではできないことができ、さらにそれぞれの活動の充実化も図れる、という考えのもと発足しました。

団体の特徴（強み）

- 会の活動に参加することで、出会いがあり、ともに活動することで、“絆”が生まれます。
- 子どもに関わる活動をしているさまざまな団体や個人が出会い、情報や意見の交換をすることができます。それによって新たな取り組みが生まれたり、個々の活動に活かしていくことができます。

絆はこうして強まった

それぞれの価値観を持つメンバーが「まずはできることから」と考えて開催したのが『柏市おはなし会 S' わくわく人形劇まつり』です。準備のために幾度となく顔を合わせ、本音で話し合ううちに絆が強くなっていきました。

今後力を入れていこうとしていること

会を「次の世代に手渡していきたい…」というのが願いですが、今は、それがいちばん難しいとも感じています。

「活動に触れてもらい、また参加してもらおう中で、多くの人にこの活動が必要だと感じてもらえたら、おのずと次を担う人たちが生まれる…」そう信じて、育成のための講座や声かけに努めています。

私たちはこんなことをしています



いろいろな世代のいろいろな人たち
とふれあい、思いっきり遊ぶ
「増尾のもりでいっしょにあそぼう！」 於：増尾城址公園



地域で活動するたくさんの団体や個人が協力して創る夢の一日
「柏市おはなし会 S'わくわく人形劇まつり」 於：中央公民館

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- 「熱意と仲間を大切に！」
 - ・団体を立ち上げるときは、“こんなことをやりたい！”という熱意と“わくわく感”にあふれていると思います。その「熱意」を大切に頑張ってください！
 - ・ひとりの力は小さいかも知れないけれど、ともに活動する仲間が力を合わせれば大きな力となり、喜びは何倍にも。困難にぶつかっても乗り越えていけるとと思います。

連絡先

代表者

日比谷 伸子（会長）
鈴木 典子（事務局長）

活動
拠点

柏市中央公民館
市内各近隣センター
（主に富里・永楽台・増尾など）

Tel

090-7708-0691

/Fax

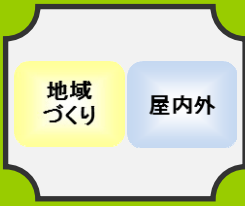
/04-7108-1771

e-mail

kashiwakobunren@gmail.com

HP

<http://kashiwa-kobunren.jimdo.com/>



多世代交流コミュニティー

サロンつちのこ

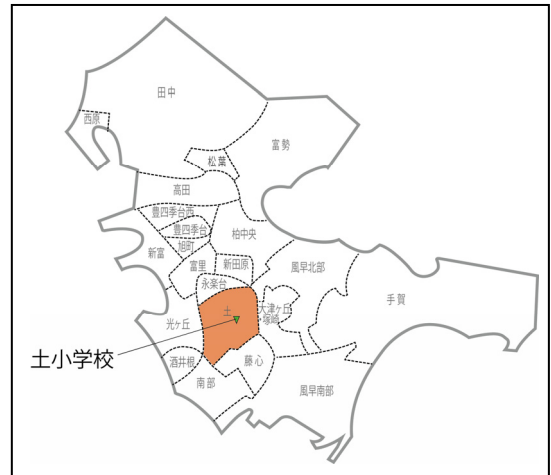


地域のお子さんからお年寄りまで、すべての人が楽しく、
いきいきと楽しめる空間づくりを心がけていきます！

団体の概要

発足時期	2014年（平成26年）7月5日
構成員 （会員）数	24名 （男性12名・女性12名）
主な活動場所	土小学校 （第4校舎多目的室）
活動頻度	毎週土曜日 夏時間：13:00～16:30 冬時間：13:00～16:00
活動目的 （団体の理念）	地域の子供たちを、地域の大人たちが見守りながら、自分たちの知恵、知識などを子供たちに伝えていく。
主な活動 内容	・月2回程度の講座、イベント、季節行事なども開催している。

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・地区社会福祉協議会で「地域、ふれあい、おもいやり」をテーマに話し合った結果、多世代コミュニティサロン立ち上げにつながりました。
- ・地域の子供たちが、ホッと出来る居場所づくりの必要性を感じました。
（高齢者中心の地域（増尾）から、子供中心に考える地域が必要）

団体の特徴（強み）

- ・市社協との連携をはじめ、柏市立土小学校の全面協力のもとで校舎をお借りできたことが、最大の活動成果であり強みです。オープンフェスティバル「昔のくらし探検」の開催は、地域の大勢の人にお手伝いを頂くことが出来、また地域の方々の出店協力もあり、周知活動としては大成功だったと考えています。
- ・団体組織としては、定期的な懇談会でのボランティアの親睦を大切にしています。
- ・メンバー、ボランティアの金銭的負担のないことは、活動継続の強みです。
- ・ボランティアがいきいきと楽しんで通ってきて、地域の子供たちと交わる居場所となっています。

活動のモットーは “できる範囲でできることを”

それぞれが楽しんで活動し、自分がやれることをやればよいとの姿勢で、みんなで知恵を出し合って活動しています。

メンバーのコミュニケーション作りとして、イベント（サロン後のお茶のみ、年2回の懇談会、暑気払い、忘年会等）を実施しています。

今後力を入れていこうとしていること

「サロンつちのこ」としては、今のペースで長く続けていくことが、大事だと考えています。どなたでも、顔を出せる温かい雰囲気作りを心掛けています。

私たちはこんなことをしています



今年もハロウィンが行われ、昨年同様、百名を超える子ども達と、付添いのお母さん達で、賑やかなパーティーになりました。

「つちのこハロウィン」



将棋が初めての児童も多く、先生方に児童のレベルに合わせ熱心に指導していただきました。

「将棋 講座」



「葛飾凧の会」の3人の先生が来て、骨組みのつけ方、糸のつけ方を分かりやすく教えて下さり、凧あげをしました。

「凧作り 講座」



50人を超える多くの子どもたちが集まり、クリスマスリースを作りました。

「クリスマスリースづくり 講座」



「作品の一部」

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・初めは、同じ意識をもって気心しれた人たちが、中心となることが大切。
- ・中心となるスタッフがしっかりと体制を固め、同じ方向性で団結しながら、沢山の人を巻きこんでいくことが重要です。
- ・また、話し合いを重ねるとともに、「地域がよい！」と同感できることが大切です。

連絡先

代表者

押味 富士子

Tel

04-7174-1466

活動

柏市立土小学校

e-mail

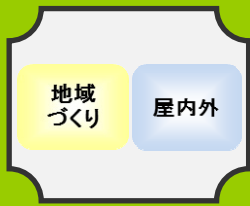
masuoshakyo@gmail.com

拠点

(第4校舎多目的室)

HP

<http://sites.google.com/site/masuofk/>



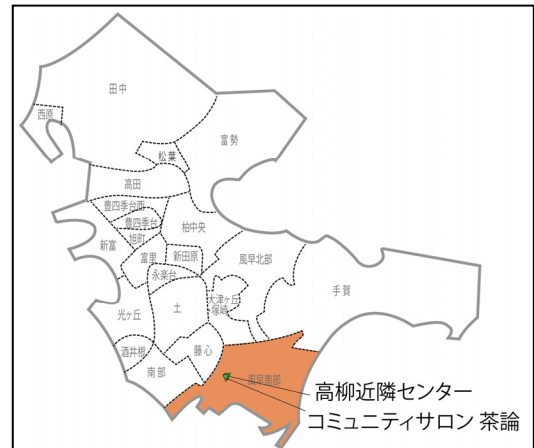
多世代交流型コミュニティ実行委員会

最高の子育て環境を次の世代につなげたい。
多世代が手をつなぎ広げる、安心と信頼の輪！

団体の概要

発足時期	2010年（平成22年）7月
構成員 （会員）数	100名 （男性30名、女性70名）
主な活動場所	コミュニティカフェ「茶論」 ^{さろん} 、学校、近隣センター、地域フィールド
活動頻度	月6回、1回3時間程度 コミュニティカフェ「茶論」 ^{さろん} 営業時間 毎週火、水、木、土曜日 夏場-10:00~17:00 冬場-9:30~16:30

活動拠点・範囲のマップ



活動目的 （団体の理念）

少子高齢化を逆手に取り、地域を1つの家族と考え、他人の孫を地域が育てる「地縁のたまご」活動（高齢者の持てる知識と経験を地域の子どもに与えることで、元気な高齢者と子どもを成長させる活動）を通じて、子どもが親になったときにこの地域で子育てをしたいと思えるような、最高の子育て環境のある地域を作り出すことを目的としています。

主な活動 内容

- ・「地縁のたまご」活動
- ・コミュニティカフェ「茶論」^{さろん} 運営
- ・まちゼミ講座の実施（子供向け・大人向け）、職場体験受入（先生・学生）
- ・地域小学生を集めての遠足、見学 など

団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・行政から打診を受けたのが一つのきっかけですが、立ち上げを決意した背景には、この地域のまとまりの良さ、ボランティア団体や行政、学校などの全ての面で協力体制がいつでも確立できるという確信を得られたことが大きかったです。
- ・実際の活動では、地域をつくりながら子供たちを育てていこうとするならば、血縁ではなく地域でつながっている他人の孫を育てなければならない（地縁の他孫）という考えに立ち、「地縁のたまご」活動を展開していきました。

団体の特徴（強み）

- ・行政主導でスタートしましたが、行政が活動の方向性に関して口をはさむことは一切なく、非常に良好な関係を築けています。また、発足前の基本教育（街づくりセミナーや長老教育、東大との橋渡し）を通じて培った知識が活動に活かしているとともに、東京大学をはじめとする大学とのネットワークや他団体との連携体制が構築できており、良い相互作用が生まれています。
- ・立ち上げ3年間は市社協の斡旋で活動資金補助を受けていましたが、4年目に入りサロン事業収益・活動作品販売・メンバーのカンパで自立した活動を行っています。

絆はこうして強まった

2ヶ月先の計画をオープンにすることで、メンバーや地域の方々と情報共有を図るとともに、「町ゼミ」会議では先月イベントの反省と次回の展開方法の審議を行い、常に進化することを心がけています。

また、失敗という言葉を決して使わず、「新しい要素が見つかった」と捉えることで、メンバーが企画を提案しやすい環境をつくっています。

今後力を入れていこうとしていること

4年目を迎えた今、活動に手ごたえを感じています。小学生の挨拶・活動中の集中力・規律が良くなってきていると感じますし、子どもの親の意識も変わりつつあります。

今後も引き続き、行政、学校、大学、他団体との連携をとっていくなかで、「子育てに適した素敵な地域」を目指して活動を続けていきたいです。

私たちはこんなことをしています



「パタパタ工作」
(町ゼミ)
於：茶論



「東大キッズセミナー」
於：高柳小学校体育館



「春休み遠足」
於：市政記念公園
(鎌ヶ谷市)



「ロケットづくり」
(やなぎっこ夏休みおもしろ学習ランド)
於：高柳小学校グラウンド

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・目先のイベントでお茶を濁すのではなく、活動の「理念」を明確にし、自ら積極的に楽しむことが大切です。そして、活動後には毎回反省会を行うことで、参加者と地域に活動の理念や進化する姿を認知してもらい、親御さんが子どもを安心して預けられる土壌を形成するよう努めましょう。
- ・金の切れ目が事業の終焉に繋がることのないよう、補助金は立ち上げ時のみとし3年以内に独立する体制を確立することをお勧めします。
- ・メンバーを集めるには、活動時の声掛けや口コミも有効でしたが、活動を随時 HP で報告するようになったことで、活動内容に興味がある方が自然と参加してくれるようになりました。
- ・活動とその反省会への参加を通じて「楽しいと思える展開」や「ここに来れば自分のやりたいことがわかる」という感覚を体験してもらうことが、メンバーの加入・定着に繋がりました。
- ・長く続けるには、ヒエラルキーを明確にせず、全員が活発に活動できる環境の整備が必要です。
- ・後発の団体ならば他でやっているイベントは絶対にせず、常に新しいことを考えましょう。
- ・学校からの要望は積極的に実施してみましょう。良好なギブ&テイクの関係を築けるはずです。

連絡先

代表者 常野 正紀

Tel 090-1852-0207

活動拠点
コミュニティカフェ「茶論」
千葉県柏市高柳 1652-1
(高柳児童ルーム隣接)

e-mail em-tomas@jcom.home.ne.jp

HP
「地縁のたまご」活動の HP
<http://ta-mago.com>



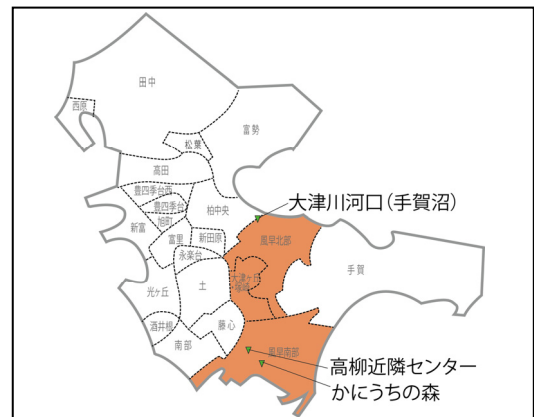
大津川をきれいにする会

子どもを通じて大人や地域の意識を変え、
将来の子どもたちのために美しい自然の環境を取り戻したい。

団体の概要

発足時期	2004年（平成16年）4月
構成員 （会員）数	44名 （男性35名、女性9名）
主な活動場所	大津川鎌ヶ谷白幡橋～手賀沼河口、かとうちの森（カシニワ）保全
活動頻度	月1回、1回2時間程度 （原則として実施月の第3日曜日 9:30～11:30）

活動拠点・範囲のマップ



活動目的 （団体の理念）

「大津川をよみがえらせ、再びホテルの里に」を夢に、大津川をきれいにする活動を通じて地域の環境向上と手賀沼浄化に努め、併せて会員相互の親睦を図ることを目的としています。

主な活動 内容

- ・ 大津川の川中（400m程の範囲）と岸辺の清掃作業、かとうちの森保全作業
- ・ 高柳小学校高柳里山探検支援事業、小・中・高・地域のピカ美化運動参加
- ・ 児童センター主催の川で、水遊び支援、湧水・川の水質調査
- ・ 美手連事業で大津川主催のウォーキング（一般公募）
- ・ サギソウ鑑賞会、地域の皆さんと森の清掃と芋煮会等

団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・ 先代の会長が立ち上げたものになりますが、10年以上前の大津川はゴミだらけで洗剤の泡があふれ、悪臭のひどい川であり、この状態を何とかしたいという考えから、同じ手賀沼に注ぐ「大堀川の水辺をきれいにする会」に入会し、ノウハウを勉強して「大津川をきれいにする会」を立ち上げました。

団体の特徴（強み）

- ・ 会員全員が大津川をきれいにして、昔のような植物・魚・鳥などがいる自然豊かな川にしようと、情熱をもって活動しています。
- ・ また、近隣の小学校と連携ができており、清掃やその他イベントを通じて交流を深めることができています。子どもと一緒に保護者も来て下さるので、親とのつながりもでき、良い関係が築かれています。

絆はこうして強まった

毎回川清掃時中間でお茶のみ休憩や総会、その他数々のイベント（総会後の花見会、カシニワフェスタの際の団子づくり、高柳祭模擬店参加暑気払い、サギソウ鑑賞会、ウォーキング、暮れの川清掃・森清掃での芋煮会、新年会）を通じて、交流を深め、意識の共有を図ってきました。

今後力を入れていこうとしていること

メンバーの年齢が高齢になったため、活動範囲や活動の仕方を検討していくとともに、今後も他団体との連携を深め、互いに活動を続けていけたらと思っています。

不法投棄が無くなり、現在の活動が別のサークルに生まれ変わるならそれが望ましいことです。

私たちはこんなことをしています



「大津川清掃活動」
於：大津川



「小学生が描いた
ポスター設置」
於：大津川橋



「校外授業支援」
於：かにうちの森



「児童センター
子ども水遊び支援」
於：大津川



「カシニワフェスタ」
於：かにうちの森



「水質調査」
於：大津川

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・ 今までの活動の中では会員の声掛けが効果的です。
- ・ 情報発信は、会報を作成、HPを作り、周知活動に力を入れています。
- ・ 事務局の設置は、活動を継続して実施していくために必要だと思います。
- ・ それぞれ役割分担し信頼して任せ、代表が一人で背負わないことが大切です。
- ・ 地域の小・中・高や他のボランティア団体との交流や協働作業が出来るように働きかけをすることが大切です。

連絡先

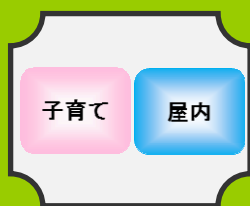
代表者 長原 邦子

Tel 04-7191-3552

活動
拠点 高柳かにうちの森

e-mail kawasemi523@gmail.com

HP <http://myzbe2010.web.fc2.com>



①赤ちゃんのほっぺ ②チルドリンちば

カタチではなく想いを大切に。

ママたちの想いをつなぐあたたかい“居場所”でありたい。

団体の概要

発足時期	2008年（平成20年）9月
構成員 （会員）数	7名 （男性0名、女性7名）
主な活動場所	柏市若柴 227-6 パークシティ柏の葉キャンパス二番街 D-103 チルドリンカフェ@柏の葉
活動頻度	月曜日～金曜日、不定期に土曜日 10:00～15:30（日曜日、祝祭日のぞく）

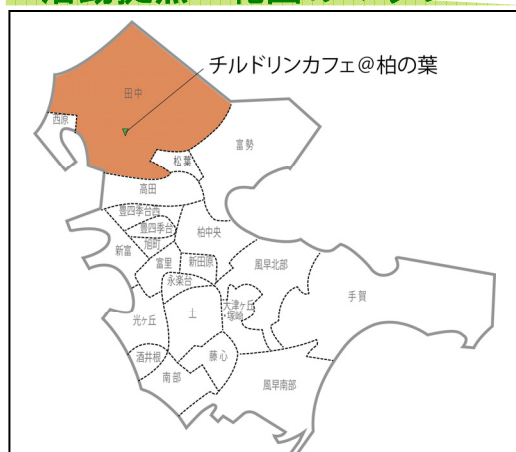
活動目的 （団体の理念）

ママの自主活動を応援し、子育て中のママたちが自分たちのペースでムリなくゆるやかに仲間や地域・社会との関わりを持ちながら、子育て時期をもっと「楽しみ・学び・安心して過ごせる場」をつくることを目的としています。

主な活動 内容

- ・ パン・ピザを提供するカフェ部門をメインに、ワークショップや交流の場を提供。
- ・ カフェでは、主に子どもを持つ女性が相互扶助・補完関係を築くことにより、就労の場を創出しています。
- ・ 自分の得意なことや経験を活かした社会への貢献の場として、ワークショップを行っています。
- ・ 交流の面では、主に子育て世代の方々が地域交流を含めた情報交換ができる場の創出・提供と、相互扶助の関係性を紡ぐ活動を行っています。

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・ 自分自身の子育てのスタート期に、地域や子育ての仲間とのつながりに困難を抱え、交流できる場が必要との思いから始まりました（①赤ちゃんのほっぺ）。
- ・ その後、ママの知識やスキルを多くの人に伝えたいとの思いで活動が広がり、期間限定のサークル活動等を展開。イベント時だけでなく常設で集える場をつくりたいとのメンバーの思いから、「チルドリンカフェ@柏の葉」（②チルドリンちば）を開店しました。

団体の特徴（強み）

- ・ ヘルプからサポートへ。受益者がサポーターへと無理なくシフトできる環境を整えています。
- ・ ボランティア＝無償ではなく、有償ボランティアとして活動することで、子育て期に社会貢献するゆとりを持った「心の豊かさ」と社会的貢献への「物理的対価」のバランスを保っています。
- ・ 受益者（子育て中のママ）のセンスや流行に合ったデザイン性や表現の仕方を心がけています。

絆はこうして強まった

定例ミーティングで月の振り返り・反省や今後の計画についての意見交換を行うとともに、ネット上で日々の活動共有や相談などをリアルタイムで行うことで、メンバーとのコミュニケーションを深めています。

今後力を入れていこうとしていること

常に求められていることを柔軟にキャッチし変革を続けながらも、日々を安心して過ごせる活動を地道に続けながら、団体を任せられる仲間をつくり、次の世代にバトンタッチできたらと思っています。また、「想い」が重なる団体等があれば今後も積極的に連携していきたいと思っています。現在は主に子育ての現役世代で活動しているので、地域の多世代を巻き込んだ活動を展開していきたいと思っています。

私たちはこんなことをしています



「おひるねアート」

於：チルドリンカフェ@柏の葉



「ミニミニママまつり」

於：同左

「ベビーマッサージ講座」

於：同左



「店内写真」

於：同左

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・ 最初から完全を目指すのではなく、今できることを積み重ねていく中で、次に向かう先が見え、そのタイミングに、必要な人と出会い、環境が整っていくのだと思います。
- ・ 自分がサポートを受けて、そのサポートの必要性を体感してくださった方が想いを共有し、力を貸してくれました。共感が共感を呼ぶ、巻き込む感覚で臨むと良いと思います。自分が活動を楽しみ、想いや熱意を伝えていくことが大切です。
- ・ 立ち上がったからは、期間限定のサークルを始めたことにより、サークル活動を楽しんで終えた方がサークルの担い手になったり、活動を有意義と感じ支援をしてくれたりしています。
- ・ 自分の「できないこと」に気付き、相手の「できること」を引き出すことです。余力はあっても「ここまで」という感覚で、すべてを自分一人で抱え込まないということが大切です。
- ・ 活動したい人は拒まず、その人のペースで無理なく活動してもらうことが理想です。
- ・ 作業の分担は自発性を重んじ、ゆるやかに各々の役割を形成していける環境・チームづくりが重要です。

連絡先

代表者 西藤 尚子

活動
拠点

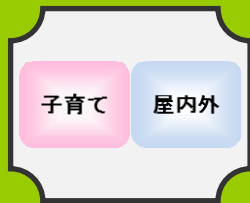
柏市若柴 227-6 パークシティ
柏の葉キャンパス二番街 D-103
チルドリンカフェ@柏の葉

Tel 04-7137-4331

e-mail info@aka-hoppe.net

HP

<https://www.facebook.com/childrincafe>
e.kashiwanoha
<http://childrincafe-kashiwanoha.jimdo.com/>



柏市青少年相談員連絡協議会

子どもたち、青少年を見守り支え続け、

共に連携し、地域に根ざした活動！

団体の概要

発足時期 1963年（昭和38年）10月1日

**構成員
（会員）数** 180名
（男性102名・女性78名）

主な活動場所 柏市青少年センター
市内全域（中学校区）

活動頻度 月2回 1回2～3時間程度（会議）
各種事業は別途実施

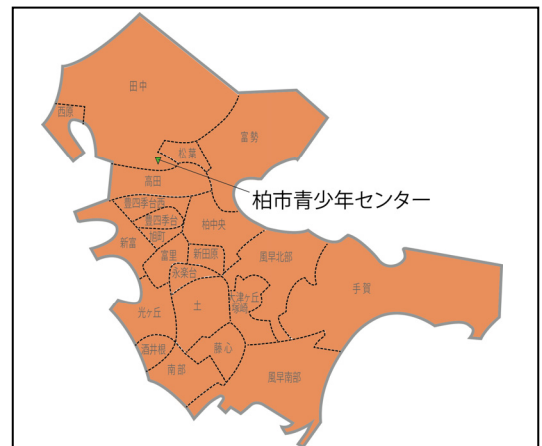
**活動目的
（団体の理念）**

青少年の健全育成。様々な体験活動を通し、青少年と触れ合い、真摯に向き合い、感動を分かち合いながら、子どもたちの成長を地域で見守り、支えることを目的としています。

**主な活動
内容**

- ・中学校区ごとの活動
- ・オーバーナイトハイク
- ・わんぱくこども祭り 等

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・行政主導による設立。
- ・現代表を引き継いだのは、子どもたちに直接かわりながら、共に喜び、共に語り、共に行動する団体であるからです。
- ・団体活動の位置付けとしては、身近な地域での活動と、広く柏市としての活動を網羅しています。

団体の特徴（強み）

- ・メンバーそれぞれの、目的の意識がしっかりしている。
- ・地域単位の活動基盤がしっかりしている。
- ・活動場所が確保されているため、会議等の運営はしやすい。

絆はこうして強まった

目的・理念の理解を徹底的に深めていきます。何より全体で活動すること。また、発言の場を増やしていくこと。

3年ごとの任期により団体組織に新しい風が吹くと共に、周囲にも多くの理解者が増えていくことで相談員としての絆が強まるのだと思います。

今後力を入れていこうとしていること

現在の活動を基盤に、1学区のみの活動だけでなく、いくつかの中学校区がまとまって活動する場をつくりたいです。

地域や一般に開いた、研修会等の開催や他団体との連携を通し、相談員活動への理解と、団体を越えた青少年健全育成活動の意識を高めることです。

私たちはこんなことをしています



定例の大イベント!!

「オーバーナイトハイク開会式」

於：柏駅東口



まだまだ元気です!!

「オーバーナイトハイク」



これはなんだ?

「わんぱくこども祭り」

於：柏市青少年センター

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・活動の継続と発信をし続けることが重要です。
- ・活動の活性化は、目的意識の徹底と団体構成員の資質向上です。
- ・メンバーが楽しく活動し、その姿を見せることは、周囲からの理解と協力者を増やします。

連絡先

代表者

柏市生涯学習課（事務局）

Tel/
Fax

04-7191-7393

活動
拠点

柏市青少年センター

e-mail

info-shgg@city.kashiwa.lg.jp

HP

<http://www.kashiwa-soudanin.org/>



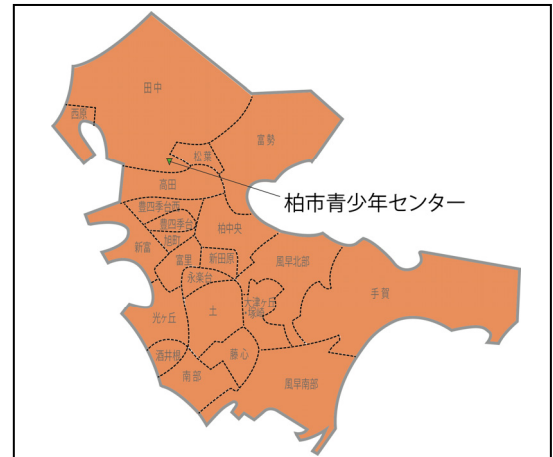
柏市子ども会育成連絡協議会

子ども達が健やかに育つためには、地域の連携が不可欠であり、
その一翼を担います！

団体の概要

発足時期	1966年（昭和41年）7月
構成員 （会員）数	理事会 20名 （男性3名・女性17名） 会員 3,200名
主な活動場所	柏市青少年センター
活動頻度	月4・5回 1回3時間程度 （理事会、研修含む部会）
活動目的 （団体の理念）	子ども会関係の連絡を密にして、互いに協力しあい、柏市における子ども会活動の発展を図ることを目的としています。 そして、この目的に賛同する柏市内の子ども会の育成団体をもって組織されています。
主な活動 内容	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会相互の交流および研修活動 リーダーの育成活動 機関紙の発行及びその他の広報活動 安全会として、安心して活動するための補償制度

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- 行政主導で設立しました。
- 構成員については団体（会）への参加からとなり、地域の子ども会活動の役員になったことがきっかけで、そのまま継続して柏市子ども会育成連絡協議会の活動に参加しています。

団体の特徴（強み）

- 行政主導の立ち上げによる協力もあり、定期的に使用できる場所があります。
- 連携・協働として、県子連のなかで東葛飾支部に位置づけられているので、情報交換や支部活動の負担が軽減できています。

絆はこうして強まった

理事に関しては、子ども会活動を通し既に理解を深めているため、同じ考え方で活動しています。

リーダー（会長）の人格も大きな要素として、まとまっています。

また、活動に関わることのほか、時には私的なことや雑談もあり、信頼関係を保っています。

今後力を入れていこうとしていること

親子会が必要と思う方のいる限り継続させてほしいとの思いと、単位子ども会の皆さんが喜んで参加していただけるような活動をつくっていきたいです。

メンバーの継続と新たなメンバーを集めるには、個人の意識の高さにもよるものと仕事や家庭の問題でなかなか引き受けていただけず、大きな課題となっていることから、まずは受けて活動を始めると楽しそうとの認識を広め深めるため、楽しく活動していることをアピールしていきます。

私たちはこんなことをしています



小学5年生のリーダーとしての活躍に向けた研修です。
「10月インリーダー研修」



11月インリーダー研修の後は、クリスマスカード作り！
「クリスマスカード作り」



インリーダー研修の後にヘルスパレー大会で、インリーダーから大人まで大盛り上がり！「ヘルスパレー大会」



ジュニアリーダー主宰のハロウィンパーティーで楽しく準備です！「ハロウィンのクッキー作り」

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- 円滑な活動をおこなうため、行政の理解と協力が重要。（場所の確保、資金援助 等）
- 地域の一員である学校（校長、教頭、クラス担任）の、活動（特に子ども会）への理解と協力が必要です。
- 組織としては、メンバー・役員一人ひとりの活動意識が重要であり、後継者の確保も必要です。
- 役員相互の人間関係も楽しくなければ続かないので、おたがいの努力も必要です。

連絡先

代表者 忠 豊和（会長）

活動
拠点

柏市青少年センター

Tel/ 04-7144-6162

Fax 04-7133-9674

e-mail tada-toyo@ezweb.ne.jp

HP

<http://kashiwak.s57.xrea.com/>

<https://www.facebook.com/kasiwakodomokai/>



青空共同保育「どんぐり」

「みんなで見守る子育て」が気に入り、お母さんたちの“達成感”も味わえることから、「どんぐり」はいつもベビーラッシュ！

団体の概要

発足時期	1981年（昭和56年）4月
構成員 （会員）数	35家族（140名）
主な活動場所	「あけぼの山農業公園」を拠点に、近隣市も含む
活動頻度	平均月15回（毎週火、木、金曜＋「ファミリーどんぐり」） 1回7時間程度

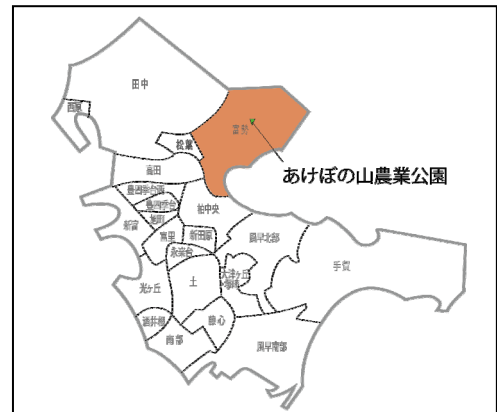
活動目的 （団体の理念）

地域の子どもとその家族に保育・子育て支援の事業を行い、子どもの福祉を最大限に尊重し、子どもの心と体の健全な育成を推進するとともに、家族の交流と研鑽を深めることによって、地域社会の発展に寄与することを目的としています。

主な活動 内容

- ・家族“丸ごと参加型”の子育て集団。生活経験重視の自主保育。
- ・園舎を持たず、自然の中でとことん子どもがあそべる環境をつくっている。親は交代で保育当番をし、保育指導者（代表）と共に見守る。
- ・てくてく歩く探検、『どんぐり農園』でのお手伝い、収穫した小麦で酵母パンを焼く・うどんを打つ。家族参加の「大運動会」、麦まき・草刈り、焼き芋大会、親子あそび、昔のあそび、読みきかせ、月行事など。
- ・柏、我孫子両市の市民フェスタ、人形劇まつりへの参加。施設・学校訪問。子育て支援応援（コーチ）。中学生、高校生ボランティアの受け入れなど。

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・子どもの成長に欠くことのできない「外遊び」を、とことんできる環境をつくりたかった。
- ・子育て中の母親が、達成感や充実感を持って子育てを楽しめるようにしたかった。（そのために、自主運営による自主保育の場にしました。）

団体の特徴（強み）

- ・子育て集団なので、メンバーの子どもが就学しても、“親の居場所”としての役割を含めた「どんぐり」の良さが“納得の口コミ”となって伝わっており、子どもたちが毎年次々と入ってくるため、1～6歳まで、各年ごとにメンバーの年齢の組み合わせの違う保育集団として、ずっと存在し続けることができます。
- ・そのため、子どもたちが兄弟のようにお互いの顔を知っているため、学年毎の活動もできるし、異年齢集団としての“自由あそび”もできます。
- ・豊富な生活体験や自然の中でとことん遊んだ経験は、子どもたちの心身をどっしりと落ち着いたものにさせ、学校での学習への準備も整うので、安心して小学校に通えます。

絆はこうして強まった

自分自身の子育てを十分楽しむことができたので、それを伝えることを“目的”にしたら、口コミで広まり、続けることができました。

各年度の始めに全メンバーの役割分担を決め、事務局の役割はみんなで共有する「毎年ローテーション方式」（「保育当番」も）を実施してきました。

今後力を入れていこうとしていること

簡単な屋根さえあればいいので、天気により回されない程度の（そして、当面の時期は放射能対策にも）施設を持ちたいと思っています。

地域内小・中学校との交流をもう一歩進めたいと考えています。

子どもに関わる、さまざまな分野で仕事をしている人と、「勉強会」を定期的に計画していきたいと思っています。

私たちはこんなことをしています



「収穫祭」 収穫した小麦粉で天然酵母の竹パンを焼く



絵本の読み聴かせ

運動会 「どんぐり」を卒園した小学生たちが紙人形劇を発表



探検で日々身近な自然からたくさんのことを発見する

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・主張すべきことは主張しながら、色々な方法を考えること。考えることを習慣にしていけば何かしらアイデアが見つかるものです。
- ・市役所へも積極的に足を運び、相談に乗ってもらおうと良い。行政に（「自主保育」等について）分かってもらうためにもなると思います。
- ・公的補助はあっていいですが、活動するに際し何かを受けるのが当たり前になるのはどうかと思います。

連絡先

代表者 嶋谷 佳苗

活動拠点
あけぼの山農業公園

Tel 04-7134-1547

e-mail -

HP -



柏プレーパークの会 あそぼうよ

子どもの生きる力の源「遊び」を大切に考え
生きる力、遊びの力を育む冒険遊場をつくり続けたい。

団体の概要

発足時期	1998年（平成10年）1月
構成員 （会員）数	15名 （男性8名、女性7名）
主な活動場所	松葉第一近隣公園
活動頻度	月1回 1回4時間程度 （毎月第2土曜日開催）

活動拠点・範囲のマップ



活動目的 （団体の理念）

現在、子どもを取り巻く遊びの環境は決して恵まれているとはいえません。こうした子どもたちのために、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、のびのび遊べる機会「あそぼうよ」を提供することで、遊びを通して様々な体験をしたり、子ども同士あるいは大人と子どもの交流を図り、子どもの心身の健全育成に貢献したいと考えています。

主な活動 内容

- ・季節や行事等を取り入れ、戸外中心の遊びを行っています。
- 例）木登り、泥んこ遊び、木工工作、ブランコ遊び、昔遊び（ベーゴマ、けん玉、おはじき）、シャボン玉、ロープワーク（滑車）、ハンモック、手作りのおやつ（棒パン、マシュマロ焼き） など

団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・東京羽根木プレーパークの活動を知り、子育てをしながら安心して自由に遊べる場が地元柏にほしいと思い、同じ思いのお母さんたちと一緒に始め、仲間や地域の方々、賛同者が増えていき活動がスタートしました。

団体の特徴（強み）

- ・参加自由、負担にならない内容です。大人も活動を「遊び場作り」ととらえ、子ども達とのかかわりを楽しんでいます。
- ・各スタッフが得意な分野を発揮しながら活動に取り入れ、むかし子どもだったことを思い出しながら楽しく実施しています。

絆はこうして強まった

準備から片付けまで一緒に行ったり、終了後の反省会や年2、3回ある親睦会で会食をしたりすることで楽しくコミュニケーションを取れています。

また、年1回の総会では今年度の反省や次年度の事業内容の方針決定・見直しを行い、目的を共有しています。

今後力を入れていこうとしていること

今のまま無理をせず、子どもたちのために続けていきたいと思っていますが、新規会員を増やして活動日をもっと増やすことが出来たらいいなという思いはあります。

興味関心がある人へはこれからもオープンな姿勢でありたいと思っています。

私たちはこんなことをしています



「木工工作」
於：松葉第一近隣公園



「手作りおやつ
(あそぼう棒パン)」
於：同左



「そうめん流し」
於：同上



「ハンモック」
於：同左

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・目的や活動内容をはっきりさせ、一人でもスタートし、協力者や理解者を増やしながらか、自分にできること、集まった人たちでできることを考えて無理せず活動を続けることが大切です。
- ・活動の後に反省会を行い、良い面、悪い面など意見の交換を行うと良い活動につながります。
- ・企業や行政などで公募している援助金などを利用する（活動資金）。
- ・家族の協力を得る。
- ・活動の周知には、地域情報誌や市広報などに載せてもらうことその他には地域のふるさと協議会や青少協の活用が効果的です。そうすることで学校ともつながりやすくなり新メンバーの加入にもつながります。
- ・活動を継続して実施していくためには、次のことが重要だと考えています。①活動内容の基本的な部分（主旨・目的）を共通理解すること、②個人や企業などの営利目的にならないようにすること、③賛同者や興味のある人は広く受け入れること、④参加者の意志を大切にして無理をさせないこと、⑤入退会を自由にする、⑥活動を通して自分たちも楽しめる内容にするということ。

連絡先

代表者 後藤 順子

活動
拠点

松葉第一近隣公園

Tel 04-7134-2771

e-mail gtjuas@yahoo.co.jp

HP http://park.geocities.jp/matuba_asoboyo/park01_index.html



ミニシアターはらぺこくん

今の活動形態をより深め、質をアップして

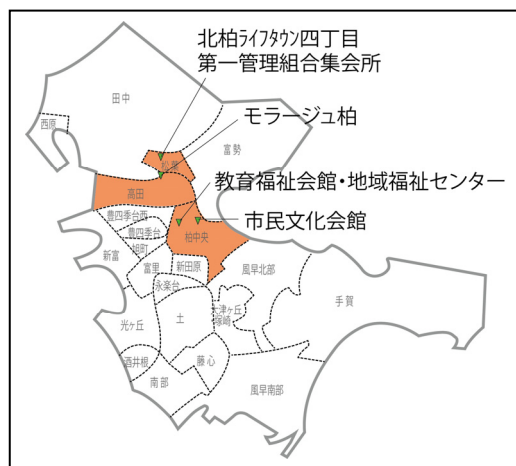
子どもたちや保護者、大人たちに届けたい!

紙芝居の良さについて、もっと広く周知したい!!

団体の概要

発足時期	1986年(昭和61年)6月1日
構成員 (会員)数	7名 (男性 0名・女性 7名)
主な活動場所	北柏ライフタウン四丁目第一管理組合 集会所 モラージュ柏 (1階モラージュルーム、2階ホール)
活動頻度	定例公演 月1回 1時間程度 (準備～搬出、反省会含め5時間) 怖いお話し会 年1回 1時間程度 (リハーサル含め14時間程) 練習 毎週火曜日午前10時～午後5時

活動拠点・範囲のマップ



活動目的 (団体の理念)

地域の子どもたちにいろいろなお話を伝え、豊かな心や想像力を育てること。
年齢の異なる子どもやお父さんお母さん達が、お話を通して共通の体験をすることが出来る居場所を地域の中につくること。
子どもたちに絵本の楽しさを感じてもらい、読書へのきっかけを与えること。

主な活動 内容

- 絵本、紙芝居、人形劇、歌、クイズ、手遊びなどの月1回の定例公演や依頼公演(幼稚園、保育園、小学校、特別支援学校など)、各地の人形劇祭り等へ参加しています。対象年齢は、0歳～小学生までです。
- 定例公演の楽しいおはなし会を卒業した子どもたち向けに、年1回、本格的に怖いお話し会、素話、スライド、朗読劇などで伝える「4年生～大人のための怖いお話し会」を実施しています。

団体を立ち上げた(設立した)“きっかけ”は?

- 松戸市、オーストラリアのキャンベラ市在住時に、素晴らしいお話し会に出会ったことがきっかけです。
- 約30年前、子どもがたくさん集まる公園団地内公園で、気の向いた時に絵本の読み聞かせをしていたところ、お母さん方から「時間と場所を決めてやってください!」という要望がありました。それに応える形で、当時、幼稚園の「お母さん人形劇団」に所属していた地域のお母さん3人で会を発足しました。
- 第1回目から約80人位の子ども、お母さんの参加がありました。

団体の特徴(強み)

- 活動内容が子ども向けであり、入場無料ということで、地域でのニーズが高いと思われます。また、メンバー自身が、子ども、大人たちの反応などから、直接的に「楽しい!」と感じられる機会が多いことです。
- 活動歴が長いので作品数が多いのですが、再演時には新しいことを加えるなど、常に向上心を持って臨んでいます。
- ひとりひとり個性的なメンバーなので、それぞれの良いところを伸ばせるような工夫をしています。また、外部から講師を呼んで、レベルアップを図る機会を設けています。
- 長く活動を続けるにあたっては、団地の管理組合、青少協、ふるさと協議会、小学校や商店街など地域の温かい見守り、倉庫の無償提供者、松葉図書館の協力など、いろいろな力が結集しています。

絆はこうして強まった

メンバー間の信頼関係が第一です。いろいろなことをオープンにし、みんなで話し合っ
て物事を決定します。その場で出たアイデアなどは決して否定せず、まずは試してみることを心がけています。情報共有はとても大切なので、メールなども多用し連絡を取り合ったり意見交換をします。大きなイベント終了時には飲み会が欠かせません。

今後力を入れていこうとしていること

今の形態をより深め、質をアップして対象の子どもたちに届けたいと思っています。将来に向けて、プログラム内容や司会など、メンバーの中の若い世代に渡して行くことをすでに開始しています。また、紙芝居の良さについても、もっと広く周知して行きたいと思っています。

定例おはなし会以外のイベント、「ちば県人形劇まつり」「柏市おはなし会'S わくわく人形劇まつり」「柏演劇祭子育て世代向けスペシャルステージ」など、幅広いイベントにも、関われるものについては参加し、より多くの団体と出会い、連携ができればと思っています。

私たちはこんなことをしています



柏歯科医師会に依頼され「かむかむファミリーアワード」で食育啓発劇を公演!

「ひみこの歯がいーぜ」

於：柏市文化会館小ホール



楽しい人形劇は、定例お話し会や各地の人形劇祭りなどで公演しています!

(写真は自作のカエル人形と)

於：モラージュ柏1階モラージュ
ルーム



年に一度、夏に、小学校4年生から大人のための本当に怖〜いお話の会をしています。

「怖いおはなし会」

於：モラージュ柏2階ホール

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・メンバー間できちんと情報を共有し、いろいろなことをオープンに、みんなで話し合っ
て物事を決定し、役割分担を明確にすることが基本だと思います。
- ・メンバーから出たアイデアは宝物と思い、どのようなものでも否定せずに必ずみんなの前で試し、常に「何でも言える!何を言っても良い!」という雰囲気を作る。こうすれば信頼関係が深まります。
- ・活動後には必ず反省会!良かったところは褒め合い記録し、問題点を抽出します。
- ・活動対象者からアンケートをいただくと、とても励みになります。HPやブログを使って、情報やアンケート結果を公表すれば、双方向的になりますね。
- ・立ち上げる人=気持ちが一番熱い人。ですから、他のメンバーが自分と同じようにできないのは当たり前です。大変だったことを吐き出せる相手(パートナーなど)がいると良いです。
- ・活動を続けられるのは、メンバー、地元の協力者、そして家族のおかげであることを常に意識しながら「苦労が多い分、得るものも多い」と心得、リーダーは進んで大変な思いをしましょう!

連絡先

代表者

熊谷 道子

Tel

04-7133-7163

活動

拠点

北柏ライフタウン四丁目
第一管理組合集会所
モラージュ柏(1階モラージュ
ルーム、2階ホール)

e-mail

mkumagai@ja2.so-net.ne.jp

HP

<http://harapekokun.web.fc2.com/>



柏おもちゃ図書館

かたつむり

障害のある子どもたちが、おもちゃを通して楽しく遊び、また、親の皆さんもホッとできるふれあいの場として活動しています！

団体の概要

発足時期

1985年（昭和60年）4月1日

構成員 （会員）数

68名
（男性11名・女性57名）

主な活動場所

柏市教育福祉会館、沼南社会福祉センター、
しこだ児童センター、キッズルームひまわり・こすもす、など

活動頻度

おもちゃ図書館定例活動 月3回、
移動図書館 月2回、
手作り布おもちゃ製作 月4回、
会報制作やイベント 月2～3回

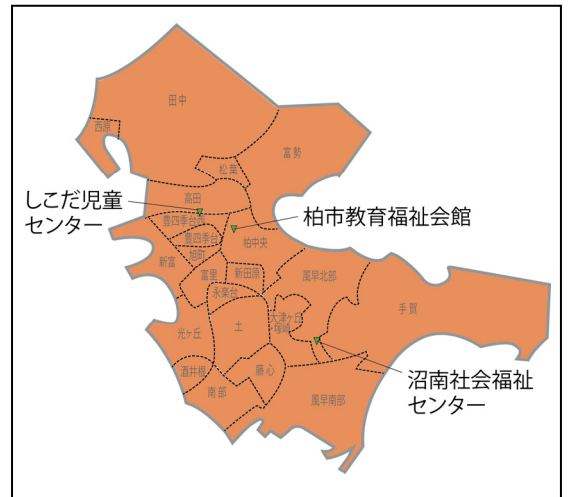
活動目的 （団体の理念）

障害のある子と親が、ゆったり、のんびりできる場所で、楽しく遊べて親がホッとできる場をつくり、親も子も笑顔になれるお手伝いが目的です。

主な活動 内容

- ・おもちゃ図書館（定例活動）を3カ所開館し、移動図書館は2カ所で実施。
- ・布おもちゃ製作の他、宿泊を含む各種体験活動や文化交流活動の実施、福祉や文化イベントへの協力、特別支援学校文化行事の参加、「おもちゃ図書館」研修会参加、会報発行（隔月）等。

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・31年前に、子どもたちと接する中で、二分脊椎という障害のある少年と出会う機会がありました。その当時、障害のある子の行くところは学校以外ほとんどありませんでした。子どもたちが育つ上で、楽しく安心して遊べる場はとても大切。また、その子を育てるお母さん達には、悩みを話し合い、ホッとできる場が必要と考えていました。
- ・そんな時、日本でも広まりつつあった「おもちゃ図書館」という活動を知り、障害のある子のお母さんと熱い想いのボランティア10名の力で、自宅で活動を始めました。

団体の特徴（強み）

- ・立ち上げ当時から関わってくれたボランティアがいることは、親にとっては実家に帰ったような安らぎがあり、不安な時にも寄り添ってくれたことが嬉しかったとの声もあります。また幼い時から利用して、青年となった今、成長をずっと見守ってくれたお馴染みの顔ぶれがいることで、本人も安心できる心の居場所となっています。
- ・おしゃべりや、体験イベント活動などを通してボランティアや利用者同士の繋がりも深まり、親が利用者としてだけでなくボランティアとして活動の運営に協力することも、ボランティアの幅を広げています。
- ・障害のある子の親と、そうでないボランティアの両方の人たちがいて、お互いの立場を学び合うことから、考えの幅も広がり、活動の柔軟性や信頼性も高まります。

絆はこうして強まった

メンバーがそれぞれ活動を楽しんでいると思えることが基本です。そして、利用している親子に喜ばれることがやりがいとなり、さらに活動を楽しみにする力となっています。

活動が多岐にわたるため、分担しています。それがお互いに信頼し合っ、みんなで支え合っているという気持ちになります。

今後力を入れていこうとしていること

保管スペースが限られているため、おもちゃが増やせず、障害の多様性に合った遊びのバリエーションが少ないのが実情です。様々な障害に合わせた遊びの展開、療育を兼ねた多種多様なおもちゃを準備したいと常々思っています。

「おもちゃ図書館」は全国的な活動で、常設しているところもあり、場の提供とおもちゃの保管場所があれば誰でもできる活動です。障害があっても気兼ねなく遊びにいける場、不安を隠さずに話せる場として、関心のある人々や関係する団体と協力し、安定性のある活動となるようにしたいです。

私たちはこんなことをしています



色々なおもちゃで一緒に楽しく遊べます♪



「保護者も交流」
於：教育福祉会館



お手玉のつぶてで鬼の顔が「フニャ～」と言って裏返ります！
「鬼やっつけタバストリー」



人形が生きてみたい！
於：沼南社会福祉センター



工夫にびっくり
「手作りおもちゃ」



大人気の「サイバーホイール」(寄贈)
於：教育福祉会館

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- 何をするにも「人」が大切で、自分の思いをしっかりと話しして、それに共感してくれる仲間をつくってスタートすることが大切だと思います。
- 見学や体験をしてもらって、言葉だけでなく活動をよく理解していただくようにしています。
- 活動については無責任にならないことが大切ですが、かと言って負担にならずに一人ひとりが無理なく活動に参加しているのか、コミュニケーションに努めながら心配りが必要だと思います。
- ギリギリの人数は無理をすることになるので、メンバーを増やす努力をしていくことが大切だと思います。

連絡先

代表者

鈴木 多恵子

Tel

090-7813-5909

活動
拠点

教育福祉会館
沼南社会福祉センター
しこだ児童センター など

e-mail

—

HP

—



NPO 法人

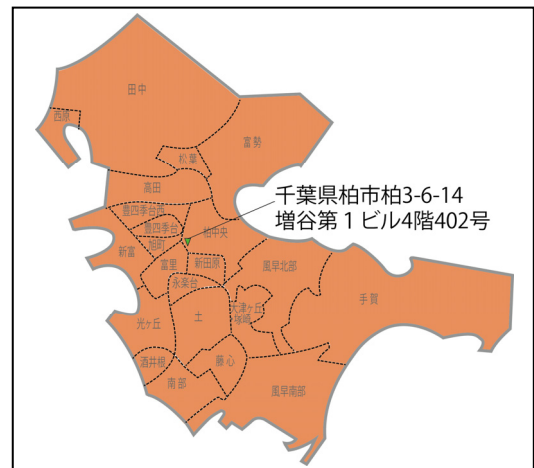
教育支援 三アイの会

私たちは、教育支援活動に取り組みます。
私たちは、地域の多くの方との出会いを待っております！

団体の概要

発足時期	2004年（平成16年）4月1日
構成員 （会員）数	72名 （男性41名・女性31名） 退職校長・教諭、主婦、その他 （一般の方からも共感して参加等）
主な活動場所	柏市
活動頻度	月9回 1回2時間程度

活動拠点・範囲のマップ



活動目的 （団体の理念）

3つのあいさつを「三アイ」と表し、「アイ」は「愛」という意味も含め、人として大切な3つのあいさつを基本に行動している会です。
不登校児童・生徒と子育てに悩む親の気持ちを受け止め、電話相談や夢未来塾（学習・生活相談）などの支援活動を目的としています。

主な活動 内容

- ・中学3年生及び生活保護世帯の子ども（就学支援）が主な対象
- ・読み聞かせ講座、学習支援事業、教育電話相談事業、不登校児童生徒支援事業、日本語教室（他団体との連携活動を含む）など。

団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・千葉県の学校を退職した校長仲間の集まりで、この会をつくろうと思いました。
- ・学校現場を離れて、それぞれが地域の活動や他の仕事で貢献したく努力していることから、今まで専門の仕事として40年余り精進してきた教育の実践を地域の人のために役に立てることができたらと、何時も会うたびに話し合ってきたことがきっかけです。

団体の特徴（強み）

- ・この団体の基盤は、退職校長の集まりである地区退職校長会（柏市の学校で退職）があり、その会における語り合いの中で、市民のために貢献できる活動を起こそうと、関係者が集まり結成されました。
- ・長年の教育経験から、適切な対応に努め多様なアドバイスを行えます。
- ・個人的に元同僚関係による支援があり、活動場所が確保できています。

絆はこうして強まった

趣旨に賛同してというより、最初の協賛者を通しての人間関係で集めることが、絆を強めるには第一です。

また適時、メンバー等との親睦の会や食事会など、息抜きの時間も絆を強めるのに必要です。

今後力を入れていこうとしていること

連携協働を図りたく、学習支援事業をはじめ、教育委員会や中学校と協働して、生徒の学習を高められることを望んでいます。

また、地域の同種事業の団体（民間等）と連携して、活発な活動をしていきたいと思っています。

私たちはこんなことをしています



学校へ行けない子や課題を抱えている子の学習場として行われている夢未来塾

「夢未来塾」

於：三アイ事務局内



「夢未来塾」

学校の悩み・自分自身の悩み・学習の悩み
みんなの力で解決できる学習場「夢未来塾」

夢未来塾にどうぞ

楽しい学習場を
用意しております

お父さんお母さん
お子さんのことについて
ご相談に乗ります

教師経験者が待っています

毎週土曜日 午前10時から12時まで
先ずはお電話をどうぞ
04-7162-2130
NPO法人教育支援 三アイの会

「夢未来塾の募集チラシ」

NPO法人教育支援三アイの会

学校のことで悩んでいる方、また子育てで困っているお父さんお母さんの方のお手助けをする会です。

悩み電話相談

毎週月～土曜日に行っています。
子育てに関する相談に
電話でお答えします！
費用は無料です

家計相談も
行っています

04-7162-2130

●夢未来塾 ～学習の会です～

毎週土曜日に、不登校の中学生を対象とした学習会を開いています。
学生さんの活躍された高生力が取れています。
会員は現在無料です！また、毎月子育て相談会を開催しています。

2277-0000
受付時間 月～土
〒270-0042
NPO法人教育支援三アイの会
TEL FAX 04-7162-2130
http://www.goodies.jp/respon066/
...ぜひお越しください!!

学習支援の大学生ボランティアが作成してくれました!!

「三アイ事業の募集チラシ」

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・活動仲間たちと、立ち上げる趣旨をしっかりと共通理解すること。
- ・資金の確保を確実にしておくこと。
- ・関係者の役割を、明確にしておくこと。
- ・リーダーは、はっきりとその方針を関係者に伝えること。
- ・民間だけでは活動が困難であり、協力・支援者が必要です。

連絡先

代表者 木内 昭（理事長）

Tel 04-7162-2130

活動拠点 千葉県柏市柏3-6-14
増谷第1ビル4階402号

e-mail sanainokai@bz03.plala.or.jp

HP

http://genki365.net/gnkk07/mypage/index.php?gid=G0000038
http://profile.ameba.jp/san-ai-no-kai/
http://twitter.com/#!/San_ai_no_kai



地域組織活動 ほほえみ会

児童センターの事業卒業者が、「今後も一緒に活動してみたい」との思いから設立。現在では「親子グループ」「実験クラブ」などが大人気！

団体の概要

発足時期	1992年（平成4年）4月
構成員 （会員）数	44名 （女性44名） ・親子グループのOG
主な活動場所	永楽台児童センター（永楽台近隣センター内）
活動頻度	月5回 1回2時間程度

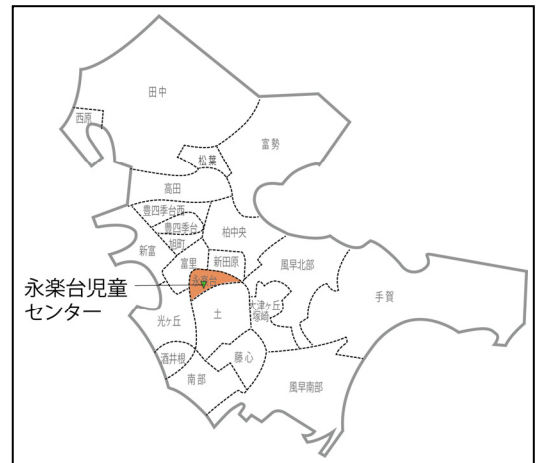
活動目的 （団体の理念）

家庭における児童の健全な育成を図る施策の一環としての、地域住民の活動の促進を目的としています。

主な活動 内容

- ・（未就園児）親子グループ活動、ベビーマッサージ・体操、子育て講座 など
- ・（小学生）実験クラブ、エンジョイ・クッキング、書初め練習、食育講座、子ども茶道教室 など
- ・（全世代）のびのびあそび隊、「児童センターまつり」への参加、世代間交流 など
- ・役員会（月1回）

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・児童センター主催の10回シリーズの“親子遊び”（講座）の事業に参加した親たちが、終了後に、事業で知り合った仲間と「せっかくだし今後も一緒に活動してみたい」との思いから立ち上げました。
- ・サークルの自主運営を、最初は市がサポートする形で始めました。

団体の特徴（強み）

- ・活動場所について、「永楽台近隣センター（児童センター）」の優先団体の中に当会も入っており、一般団体より早期に申し込みが可能で、定期的に使用することができます。
- ・実施事業（活動）についても、児童センターと共催のものは、センターが広報を担ってくれています。
- ・センターを利用している他の団体と交流・連携があり、年に一度『永楽台児童センターまるごとあそびば』を連携・協働で開催しています。

絆はこうして強まった

親子でサークル活動する「親子グループ」の参加者から、「ボランティア活動を行う側」のメンバーに変わるのはハードルが高いと思いますが、そこを乗り越えて中心メンバーになった人たちとの間には、強い絆ができたと思います。

今後力を入れていこうとしていること

行政による子育てのサポートがかなり充実してきており、親子での居場所づくりやイベントが多く企画されているのは大変いいことですが、そうした状況もあってか、自主運営に積極的に関わろうとする人がとても減ってしまったと思います。

いずれにせよ、「続けよう」という同じ思いを持った仲間を少しでも増やし、継続していきたいと思っています。イベントの機会などにそういう“想い”を時にはアピールしていこうと考えています。

また、近年は当会のような、主に“お母さん方のリフレッシュの場”としての役割に、期待が寄せられているようにも思います。

私たちはこんなことをしています



「親子体操」

於：永楽台児童センター



「エンジョイ・クッキング」

於：永楽台児童センター
料理実習室



のびのびあそび隊「虹の影絵あそび」

於：永楽台児童センター



「実験クラブ」

於：東葛飾高等学校科学実験室

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・一歩踏み込んで、「子どもと楽しく遊ぶこと」を自分たちで考え実施する仲間づくりをぜひ考えてほしいと、切に願います。
- ・情報発信については、“ママ友”などへの「口コミ」が意外と効果的だと思います。
- ・交付条件に合う形できちんと活動し、公的な補助（金）をもらうようにすると、運営の大きな助けになると思います。

連絡先

代表者

土屋 安子（会長）

Tel

04-7169-4696

活動

拠点

柏市永楽台児童センター

e-mail

—

HP

<http://kashiwahohoemi.web.fc2.com/>



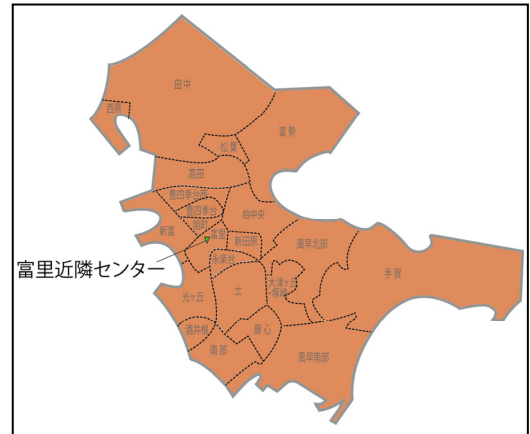
NPOこどもすぺーす柏

子どもの時にこそ、心ゆさぶられる感動や多くの仲間との遊びが必要！
「とびっきりの子ども時代！」の子育てを支援していきます☆。

団体の概要

発足時期	2003年（平成15年）6月
構成員 （会員）数	70名 （男性5名・女性65名）
主な活動場所	柏市内各所
活動頻度	通年、活動。

活動拠点・範囲のマップ



活動目的 （団体の理念）

子どもがひとりの人間として尊重される社会をめざします。主に柏の子どもに対し、自主的、文化的、創造的な体験活動を行い、子どもの心豊かな成長に寄与することを目的とします。

私たちの夢は、すべての子どもたちが「自分のことが好き」と思えることです。

主な活動 内容

- ・生の舞台鑑賞とあそびを、主に市内の親子に向けて届ける。
- ・そのほか、「おはなし会」などの子育て支援、子どもの表現活動。
- ・行政（市）への協力。

団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・前身である『柏子ども劇場』は会員制の団体だったが、親子で舞台を楽しむだけでなく、子育てを考え、NPO的な活動もしていました。もっと「広く社会貢献をするため」、NPO法人を立ち上げることになりました。

団体の特徴（強み）

- ・常設の「事務所」があるので、会員（子どもたちも含む）は自由に来ることができ、コミュニケーションをとり合うことができます。ちょっとした“居場所”にもなります。場所も、市の「富里近隣センター」の隣と大変便利な立地です。事務所には専任の事務局長がいて週4日開所しており、連絡が取り易いことは対外的にも大きな利点になっています。
- ・子育てに興味のある大人の方なら誰でも正会員になれる、正会員の家族は年齢に関係なく家族会員として登録ができます。

絆はこうして強まった

元々は自分たち自身が楽しむための任意団体だったため、社会的貢献をするNPO法人に移行した際には、戸惑う会員も多く、話し合いを重ねました。しかし、そこで理解の得られた会員からは、以前にも増して強い支援や協力を得られるようになりました。

今後力を入れていこうとしていること

共感してくださる市民の方々とともに、活動をもっと拡げていきたいと考えています。

今後は、行政(市)と共催(市による協賛、後援といった形も含みます)するイベントを多く計画していきたいと思っています。

“担い手”の世代交代にも、徐々に取り組んでいきたいです。

私たちはこんなことをしています



「感動」は心を育てます。
(「おやこ舞台鑑賞会」より)



感じるままに描く。“失敗”は
ありません。
(「2歳からのアート体験」より)

「遊んであげる」のではなく、子どもも大人も「本気で遊ぶ」ことを大切にしています。(「デイキャンプ」より)



今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・目的・事業の対象をはっきりさせると良い。
- ・複数の事業・活動を手がける団体の場合は、事業や対象ごとにチラシを作成し、公共機関をはじめ目的に応じた場所に配布、設置すると良いです。ポスターも同様です。
- ・「会費」は、最も継続的で安定的な活動資金になると思います。不足分を収益活動で生み出していきます。公的補助は、制約があって活用が難しい点が多いと思います。

連絡先

代表者

井野口 典子(理事長)

Tel

04-7169-8451

活動

団体事務所(柏市富里2-3-

e-mail

info@kodomospace.org

拠点

26)

HP

http://kodomospace.sblo.jp/



柏 Papa Shake Hands

仕事と家庭に悩むこともある。

そこに「地域」が加われば楽しいんだよ！ってことを伝えたい。

団体の概要

発足時期 2010年（平成22年）4月

**構成員
（会員）数** 7名
（男性6名、女性1名）

主な活動場所 各地域の児童センター

活動頻度 月1回 1回2時間程度

**活動目的
（団体の理念）**

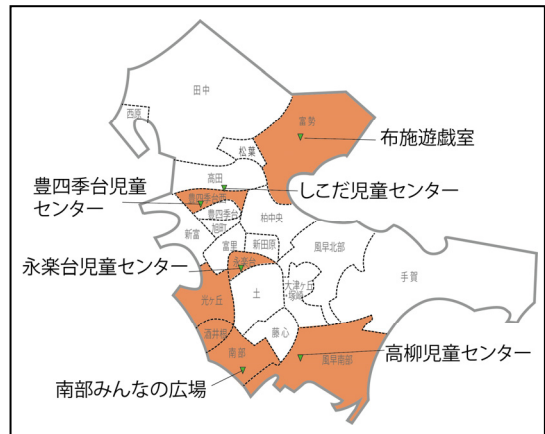
イベント等を通じて地域のパパたちとの交流を行うことを目的としています。

**主な活動
内容**

・集まった子どもや大人たちの人数や年齢、季節等を考慮して都度イベント内容を決定

例）パパジャングルジム、絵本、紙芝居、縄を使った遊び、プラレール遊び、薫製作り、水遊び、チャンバラごっこ、封筒での鯉のぼり作り、段ボール遊び、クリスマスツリー作り、餅つき、たこ作り、布電車、ボール遊び、アスレチック遊び など

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・自分の子供が幼児期に、柏地区の児童センターに頻繁に通っていたことがきっかけで知り合ったパパ達や、児童センター職員さんと相談したうえで立ち上げました。

団体の特徴（強み）

- ・地域のパパママ達との交流を深めていく活動（イベント）をしています。イベントを行う上では、特に誰がという役割を決めてはいません。その時々に応じて、司会役・絵本読み聞かせ係・紙芝居係など、誰でも出来るようにしています。
- ・メンバー全員が楽しく、そしてゆるーく繋がっているので、だれが欠けても回っていく運営体制になっています。

絆はこうして強まった

月1回の飲み会での活動スケジュールやイベント内容の確認等を通じて、メンバーとのコミュニケーションを深めています。

今後力を入れていこうとしていること

このままの形で活動を続けながらも、他団体との連携やメンバーの加入に力を入れ、イベントをたくさん開催したり、新しいイベントを開催したりと、積極的に活動していきたいと思っています。

私たちはこんなことをしています



「パパジャングルジム」
於：高柳児童センター



「紙芝居」
於：高柳児童センター



「作って食べようバームクーヘン」
於：柏市青少年センター



「プラレール遊び」
於：高柳児童センター

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・ まず、自分が楽しそうだと思う場所に顔を出すことから始めてみて、イベントを運営している方やイベントにきている方と知り合いになることが効果的だと思います。「面白い」を共有できる方と知り合いになるのが最短の方法です。
- ・ まず自分が楽しむことが大切です。自ら楽しんでいる姿勢を示すことで参加者も集まってくれます。
- ・ 参加者を積極的に巻き込みイベントを運営することで、子どもとの触れ合いが深まるとともに新規メンバーの参入にもつながり、継続的な活動へと結びつきます。
- ・ 情報発信については、Facebook を通じて毎回の活動を紹介しています。

連絡先

代表者 奥田 純太

活動拠点 柏市永楽台児童センター

Tel 090-2932-5900

e-mail okudaster@gmail.com

HP <http://www.facebook.com/KashiwaPSH>



子ども・学校支援ボランティア “十色” 咲かそう会

逆井中学校で、「地域とともにある学校」づくりを支援。会の名は「一人ひとりが個性を生かして、それぞれの花を咲かせてほしい」との願いから。

団体の概要

発足時期	2002年（平成14年）4月
構成員 （会員）数	61名 （男性30名・女性31名） ・青少協、民生児童委員等OB、OG
主な活動場所	逆井中学校
活動頻度	※下記「主な活動内容」参照
活動目的 （団体の理念）	逆井中学校で、「地域とともにある学校」づくりを支援する子ども・学校支援ボランティアの会です。「地域の教育力」を学校に提供することにより、多様な教育を展開できるように支援を行います。
主な活動 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校支援ボランティア」…随時 ・「学校施設ボランティア」…年数回 ・「図書ボランティア」、「花ボランティア」…それぞれ毎週1回 ・「子どもを見守るボランティア」 ・「地域活動ボランティア」 ・「相談活動ボランティア」

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・当会の「コーディネーター」が補導員を定年退職になった際に、当時は荒れ気味だった地元中学校のために何かしなくては、と考えたところ、地域にはユニークな人材で地域思いの人が多数いる事に気付いてそうした人たちに声掛けをし、最初は「花ボランティア」から活動を始めました。
- ・サークルの自主運営を、最初は市がサポートする形で始めました。

団体の特徴（強み）

- ・既に地域の中で、青少協の役員、民生児童委員、PTA役員、町会長、補導員等としてそれぞれ活動していた仲間を組織化することができ、地域の事情に精通し“勝手がわかっている”メンバーがたくさんいます。
- ・逆井中学校内に活動の拠点（ボランティア室）があるため、大変活動がし易いです。

絆はこうして強まった

活動そのものや活動後の懇親会・食事会を通じて懇親を深めて仲良くなるようにし、会員には「感謝の気持ち」を伝えるようにしました。また、そうした場で、ネガティブな内容も含めて何でも話すようにし、とことんの話し合いを徹底するように心がけました。

今後力を入れていこうとしていること

既にかなり多様な活動を行っているため、活動の幅をこれ以上拡げることはせずに、現状の活動をしっかり続けていこうと思っています。

「事務局」を設置し、各活動分野ごとに、会員が意見や連絡事項等があった際に誰に言っていけば良いか明確にするようにします。

私たちはこんなことをしています



「花ボランティア」



「抹茶体験」(学校支援ボランティア)



逆井囃子(学校支援ボランティア)



「図書ボランティア」

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・メンバー間で、ネガティブな内容も含めて何でも話すようにし、とことんの話し合いを徹底することが大切だと思います。
- ・“思い”を上手く企画・立案につなげていけるような「コーディネーター」的な人がいると、活動がよりスムーズになると思います。
- ・公的な補助金は、あれば活動が大変助かると思います。

連絡先

代表者 深野 俊郎

活動拠点 柏市立逆井中学校

Tel 04-7172-4221

e-mail -

HP sites.google.com/site/toirosakaso



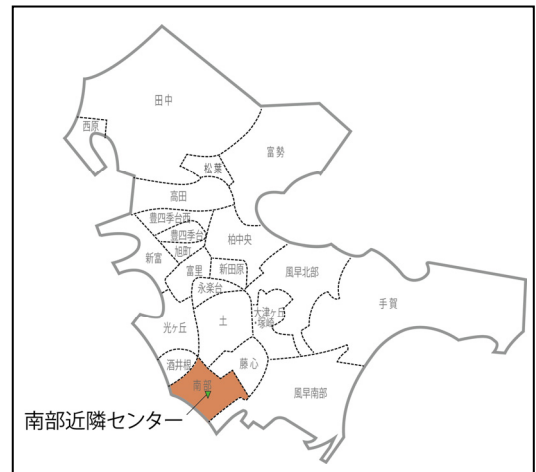
ひろば・色えんぴつ

「南部近隣センター」で活動中の、“子どもたちの放課後の居場所”。
思い思い、自由に過ごせるほか、希望する子には元・学校の先生による
学習指導も！

団体の概要

発足時期	2011年（平成23年）4月
構成員 （会員）数	21名 （男性8名・女性13名） ・ふるさと協議会、主任児童委員など
主な活動場所	南部近隣センター（旧遊戯室）
活動頻度	月12回 1回2～3時間程度
活動目的 （団体の理念）	家庭における児童の健全な育成を図る施策の一環として、地域住民の活動の促進を目的としています。
主な活動 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の子どもたちに、リラックスして過ごせる場を提供。 ・小中学生（主に小学1～4年生）の学習の手助け。 ・学習以外にも、折り紙や手作りおもちゃ等にも取り組む。 ・学校の長期休み期間中には「百人一首大会」などのイベント・行事も実施。

活動拠点・範囲のマップ



団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・柏市で「“地域の縁側”づくりをしよう」という計画があって、この地域でも、「子どもたちの放課後の居場所をつくろう」という考えから、南部地域ふるさと協議会を基に活動が始まりました。

団体の特徴（強み）

- ・ボランティアスタッフの中に、教えることが大好きな元教員（現在は3人）がいて、（小学1～4年生をメインに）勉強をみてもらうこともできます。
- ・「南部近隣センター」内の、決まった活動場所があり、子どもたちも安心して利用できます。
- ・既にいろいろな所でボランティアやふるさと協議会、民生委員、主任児童委員などをしている人が何人もいて、その人たちの豊富な知識や経験がとても役立っています。

絆はこうして強まった

地域の「回覧板」で宣伝をして、それを見て参加した人もいました。回覧板や“口コミ”が思いのほか効果的です。

また、懇親会やバザーでは、日ごろは聞けないような話も出て、親睦を深めることができました。

今後力を入れていこうとしていること

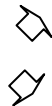
学習に対する意欲や関心が低いような子でも喜んで来られるように、活動や道具を充実させていきたいと思っています。

また、英語等の特技があるとか、元教員のスタッフを増やしてより運営しやすくしていきたいと考えています。

私たちはこんなことをしています



↑
「色えんぴつ」のようす
於：南部近隣センター



「五色百人一首大会」のようす

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・地域で活動している人、地域で役員をしたことがある人、ボランティアの経験がある人など様々な経験者が何人もいると活動が進めやすいです。
- ・特定の人、中心になる人に仕事が集中しないようにすべきだと思います。
- ・(当会の場合は) 普通の活動日は2～3人で活動しているので、多くの人の意見を聴くためには月1回の「定例会」は大切。できるだけ多くの意見を聴いて、無理なく活動を続けたいものです。

連絡先

代表者

新関 謙

活動
拠点

柏市南部近隣センター

Tel

04-7176-0833

e-mail

ni-ken@guitar.ocn.ne.jp

HP

<https://sites.google.com/site/nanbu79/min-nano-guang-chang>



みんな集まれ柳の木

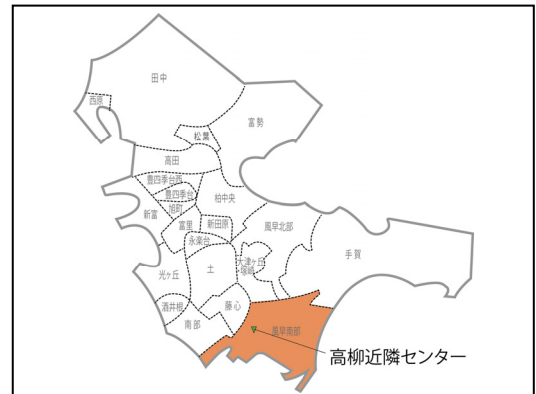
「住んでよかった」という地域をめざして。

子どもの心イノベーションで地域づくり！！

団体の概要

発足時期	1999年（平成11年）6月
構成員 （会員）数	34名 （男性20名、女性14名）
主な活動場所	高柳、しいのき台
活動頻度	月1～2回、1回5～6時間程度

活動拠点・範囲のマップ



活動目的 （団体の理念）

環境美化や夏祭り等のイベントを通じて、小学生から高校生までの児童の健全な育成および地域を大事にする心を育むことを目的としています。
基本理念、1「楽しむこと」、2「進化すること」、3「活動中は気配り気働きで円滑な運営」。

主な活動 内容

- ・環境美化のイベント「ピカ美化運動」（毎年5月に小学生から高校生まで、およそ800名で行う）
- ・夏祭りの協力、他団体への手伝いや活動援助
- ・「のし餅作り」約10俵（活動資金作り）
- ・小学校での餅つき体験

団体を立ち上げた（設立した）“きっかけ”は？

- ・地域の中学校が荒れていた平成11年頃に教育委員会からボランティア立ち上げの打診を受け、同中学校のPTA役員を中心に活動が始まりました。

団体の特徴（強み）

- ・地域の人々が中学校について問題意識を広く共有していたため、設立時から70名のメンバーが集まり、地元消防団やPTAの役員からも積極的な協力が頂ける環境の中、当初から比較的規模の大きな活動が行えていました。
- ・ここ10年程は、祭りやイベントの運営で活動資金を調達することができ、自立した活動ができています。
- ・他団体とも積極的に連携しているため、メンバーの増減に依らず活動を長く続けられています。

絆はこうして強まった

月1回の定例会議や年1回の研修旅行、イベント終了後の反省会を通じてコミュニケーションを図り、活動状況や目的、意識の共有を図っています。

今後力を入れていこうとしていること

これまで通り活動しつつ、他団体との連携を深めていきたいと思っています。

連携することで人数の問題は解決できていると思いますし、ゆっくりと引継ぎに向けて動いていきたいです。

新規メンバーも、自分たちが楽しんで活動をする事で集まると思います。

私たちはこんなことをしています



「ピカ美化運動」



「ピカ美化運動」



「高柳祭り」
於：高柳小学校グラウンド



「高小高西おもちつき」

今後、団体を立ち上げる方たちへ

- ・ 活動の「理念」を明確にして展開することが大切です。
- ・ 行政頼りであると行政から支援がなくなったら活動が途絶えてしまいます。そうならないよう、独立した活動の展開を目指すことをお勧めします。
- ・ 活動内容を反省し、常に進歩する姿勢を持つことが大切です。
- ・ 地域性にあった活動の展開をすることが重要です。
- ・ 子どもの育成を目的とするボランティアは、地域の学校がどれだけ扉を開いてくれるかがカギになっていきます。
- ・ 情報発信は、各学校や地区の回覧物で行うと効果的です。

連絡先

代表者 伊藤 実

活動拠点 代表自宅

Tel 04-7191-3552

e-mail -

HP -



**人をつなぐ 未来へつながる柏市で活動している団体を紹介する本
～柏市の地域・市民活動団体の紹介～
《第3次柏市生涯学習推進計画別冊》**

発行 / 柏市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
お問い合わせ先 / ☎ 04-7191-7393 FAX 04-7190-0892

※ 第3次柏市生涯学習推進計画は、この冊子のほか、①計画、③手引書により構成されています。